

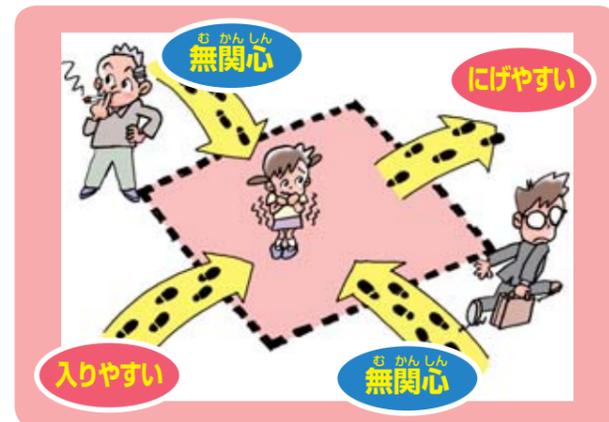


～キミのまちの「地域安全安心マップ」づくりのために～ 「危険な場所」はどういうところかな？

犯罪が起こりやすい場所、「危険な場所」とは？

犯罪が起こりやすい場所、「危険な場所」とは、どういうところでしょうか？
立正大学文学部社会学科の小宮信夫教授に聞いてみました。

■入りやすい場所



- ・ 入るのにじゃまになるものがない。
- ・ さかい目がはっきりしていない。
- ・ 出入口（にげ道）が多い。

- ・ 近所の人たちが犯罪者に注意していない。
- ・ 近所の人たちで集まることが少ない。

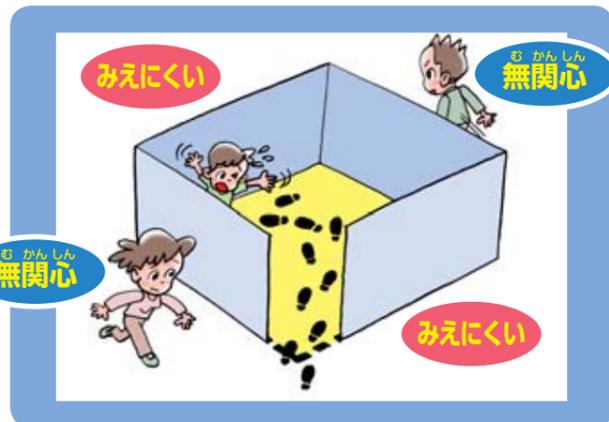


誰もが自由に出入りでき、
周りの人が無関心。



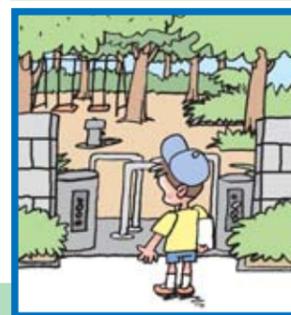
ゴミが放置され、
住民が無関心。

■見えにくい場所



- ・ 人がほとんどいない。
- ・ 暗い。
- ・ 見るのにじゃまになるものがある。

- ・ 近所の人たちが地域のことに関心がない。
- ・ 近所で困ってる人がいても、見てみぬふりをする人が多い。



公園の中の見通しが悪い。



住宅のへいが高く、
子どもの存在が見えない。

危険な場所がどんなところか理解できたら、
チャレンジしてみよう！

- P16・17 イラストマップでまちの中の危険を考えてみよう
- P18・19 道や公園での危険を考えてみよう

作ってはいけない「地域安全安心マップ」とは？

「地域安全安心マップ」づくりの失敗例を小宮信夫教授に聞いてみました。

失敗例 ① 不審者マップ

大人の方に

■何で失敗例なの？

- ・ 不審者かどうかの判断が主観的なため、特定の人や集団を不審者扱いした差別的な地図になる危険性があります。
- ・ 「不審者に注意しましょう」と子どもに指導することは、「進んであいさつしましょう」とか「困っている人を助けましょう」と指導することと矛盾するため、子どもたちを混乱させてしまいます。
- ・ 子どもたちには、「犯罪が起こりやすい場所にいる大人には十分警戒し、犯罪が起こりにくい場所にいる大人とは積極的に関わろう」と指導することが望まれます。



危険な場所

失敗例 ② 犯罪発生マップ

大人の方に

■何で失敗例なの？

- ・ 犯罪が起きた場所だけで、その後も犯罪が起き続けるわけではないので、その場所に執着していると他の場所で油断し、犯罪の被害にあうことにもなりかねません。
- ・ 犯罪の発生場所を単純に地図に書き込むだけでは、危険な場所を見極める能力は育ちません。
- ・ 転校しても遠出しても、被害にあわないためには、子ども自身の力で危険性を判断できるようになる必要があります。
- ・ 被害者から被害体験を聞き出そうとすると、被害者のトラウマ（心の傷）を深める危険性もあります。



大人の方に「地域安全安心マップ」作成にあたっての注意点

個人情報などの記載については注意してください。

- 個人情報に関すること：家の表札、車のナンバープレート、通行人の容姿などについては撮影・記載しないでください。
- プライバシーに関すること：人の顔や氏名は撮影・記載しないでください。
- 個人攻撃や犯罪者への情報提供になる恐れがあるもの：個人の住宅の安全性や危険性を表示することは避けてください。



※本書における「地域安全安心マップ」とは、「地域安全マップ」と同じものです。
参考文献 小宮信夫著「地域安全マップ作製マニュアル」（東京法令出版）



～キミのまちの「地域安全安心マップ」づくりのために～

イラストマップでまちの中の

危険を考えてみよう

■ねらい

イラストマップを通じて、身近な地域の危険・安全についての意識を高めます。

■進め方の例

資料配布・説明

子どもと一緒に考える

意見交換・解説

1. P.16・17のイラストマップをコピーして子どもたちに配ります。
2. ここでのポイントは、身近な場所で犯罪・事故にあうかもしれない危険な場所があることについて、子どもたちに考えてもらいます。
3. P.16・17のイラストマップをみて、危険な場所・安全な場所はどこか子どもたちに質問します。
4. 子どもたちの発言をききながら、右ページ(P.21)の各ポイントをもとに説明します。
5. 身近にある場所を引き合いに出して説明すると、一層子どもたちの理解が深まります。



～キミのまちの「地域安全安心マップ」づくりのために～

道や公園での危険を考えてみよう

■ねらい

左右のイラストを比較しながら道や公園での危険について学びます。

■進め方の例

資料配布・説明

子どもと一緒に考える

意見交換・解説

1. P.18・19のイラストをコピーして子どもたちに配ります。
2. ここでのポイントは、左右のイラストをみてその違いを探ることと、その理由について、子どもたちに考えてもらうことです。
3. 左右のイラストをみて、どちらが危険なのか、また、それはどうしてか質問します。
4. 左右のイラストをみて状況の違いや気をつける点について、P.19右のこたえに沿って説明します。

■各ポイントについて解説

場 所	解 説
交番	不審者に出会ったら迷わず駆け込もう。
公園	見通しの悪い公園は、不審者が現れたり、声をかけられたりする可能性がある。ひとりでいるときは一層気をつけよう。
川・池	水辺の事故は命にかかわることがあるので、遊ばないようにしよう。
雑木林	周りから見えにくく、不審者が身を隠しやすいので、近づかないようにしよう。
人通りの少ない道	不審者が待ち伏せしやすいので、注意しよう。
工事現場	工事現場には近づかないこと。事故にあう危険が高い。休日は人がいないので犯罪にあう危険もある。
駐車場	交通事故の危険性が高く、不審者も身を隠しやすいので、駐車場で遊ぶのはやめよう。
コンビニエンスストア	いざというときに逃げ込める場所として、おぼえておこう。
横断歩道	横断歩道では、飛び出さずに左右をよく見てわたろう。青信号をわたっていても、右左折の車にも注意しよう。
T字路	右左折してくる車に注意しよう。
夜間に街灯のない道	不審者に待ち伏せされたり、声をかけられたりする恐れがあるため、周囲を見回しながら注意して歩こう。
ガードレールのない歩道	後ろから走ってくる車には注意して歩こう。友だちと話していたりして、注意力が散漫になっていると危険。広がって歩かないように歩行のマナーも守ろう。また、ガードレールがないと、車で連れ去られやすい。
幹線道路への抜け道	「抜け道」は、狭い道路でも、交通量が多かったり、車のスピードが速かったりするので、歩いている人は危険。周囲に注意して歩こう。
子ども110番の家	いざというときに逃げ込めば助けてくれる。近所や通学路の「子ども110番の家」の場所を覚えておこう。
落書き、ゴミの放置	落書きがあったり、ゴミを放置してある場所は、人が無関心で、管理が行き届いていないことが多い。不審者が待ち伏せしやすいから気をつけよう。
空き家	不審者が身を隠しやすく、連れ込まれる危険性がある。
歩道橋	遠回りになっても歩道橋を使って交通事故にあわないようにしよう。
交通量の多い道路	交通量の多い道路が通学路になっている場合は、必ず横断歩道や歩道橋を渡ろう。
高い塀や生垣が続く道	不審者に待ち伏せされたり、声をかけられたりする可能性がある。注意して歩こう。

まちの中の危険をまよえの道や公園の危険をまよえの